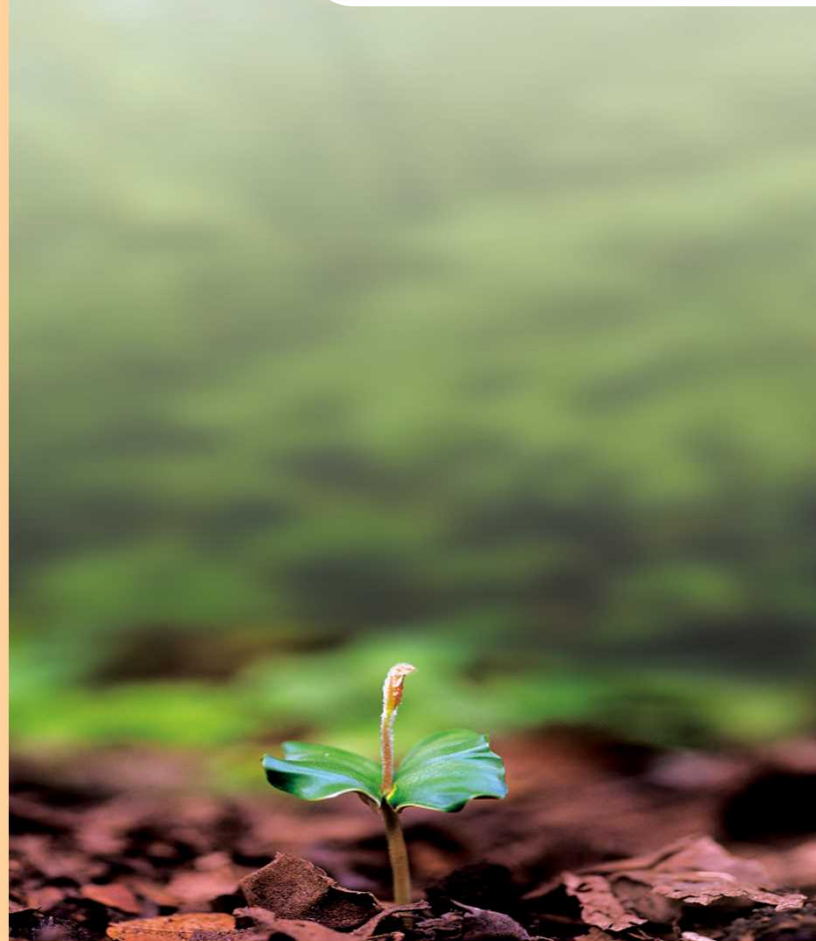


# 全国の自然再生事業の 取組状況について

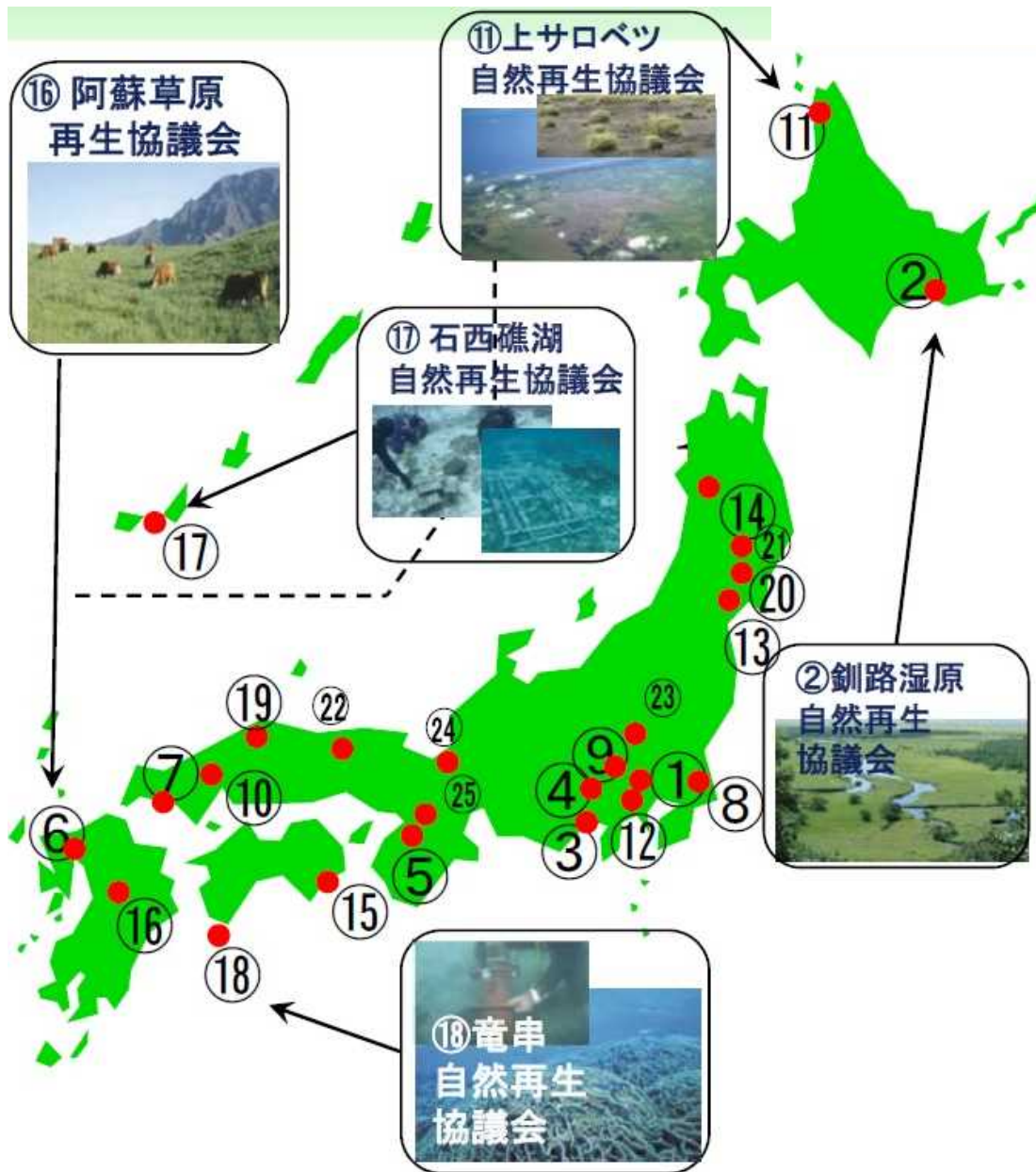


平成29年1月

環境省 自然環境局 自然環境計画課



# 1. 全国の自然再生協議会の位置図



	協議会名	設立日
①	荒川太郎右衛門自然再生協議会	H15.7.5
②	釧路湿原自然再生協議会	H15.11.15
③	麻機遊水地保全活用推進協議会	H16.1.29
④	多摩川源流自然再生協議会	H16.3.5
⑤	神於山保全活用推進協議会	H16.5.25
⑥	檜原湿原地区自然再生協議会	H16.7.4
⑦	榎野川河口域・干潟自然再生協議会	H16.8.1
⑧	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会	H16.10.31
⑨	くぬぎ山地区自然再生協議会	H16.11.7
⑩	八幡湿原自然再生協議会	H16.11.6
⑪	上サロベツ自然再生協議会	H16.1.19
⑫	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会	H17.3.28
⑬	蒲生干潟自然再生協議会	H17.6.19
⑭	森吉山麓高原自然再生協議会	H17.7.19
⑮	竹ヶ島海中公園自然再生協議会	H17.9.9
⑯	阿蘇草原再生協議会	H17.12.2
⑰	石西礁湖自然再生協議会	H18.2.27
⑱	竜串自然再生協議会	H18.9.9
⑲	中海自然再生協議会	H19.6.30
⑳	伊豆沼・内沼自然再生協議会	H20.9.7
㉑	久保川イーハトーブ自然再生協議会	H21.5.16
㉒	上山高原自然再生協議会	H22.3.21
㉓	多々良沼・城沼自然再生協議会	H22.4.10
㉔	三方五湖自然再生協議会	H23.5.1
㉕	高安自然再生協議会	H26.1.14

## 2. 各協議会の自然再生の主な対象

### 里地里山保全再生

神於山保全活用推進協議会

くぬぎ山地区自然再生協議会

久保川イーハートープ自然再生協議会

高安自然再生協議会

### 森林・草原再生

多摩川源流自然再生協議会

森吉山麓高原自然再生協議会

上山高原自然再生協議会

阿蘇草原再生協議会

### サンゴ礁再生

竹ヶ島海中公園自然再生協議会

石西礁湖自然再生協議会

竜串自然再生協議会

### 河川・湖沼環境保全再生

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会

麻機遊水地保全活用推進協議会

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会

野川第一・第二調整池地区自然再生協議会

中海自然再生協議会

伊豆沼・内沼自然再生協議会

多々良沼・城沼自然再生協議会

三方五湖自然再生協議会

### 湿原・干潟再生

釧路湿原自然再生協議会

樫原湿原地区自然再生協議会

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

八幡湿原自然再生協議会

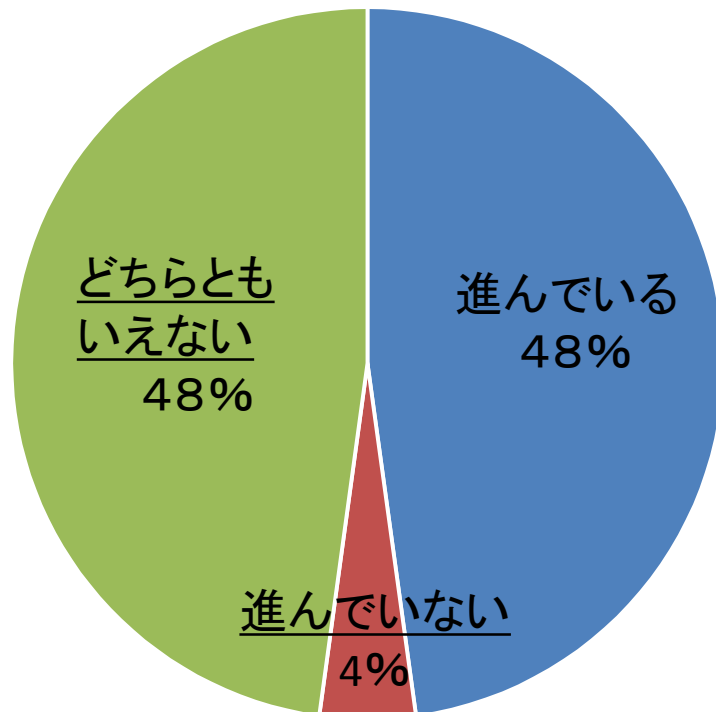
上サロベツ自然再生協議会

蒲生干潟自然再生協議会

## 3-1. 自然再生事業の実施状況(協議会アンケート結果)

(補足:現在実施中の請負調査の中間取りまとめ)

### ○自然再生事業の取組は予定通り進んでいるか



#### 「どちらともいえない」回答理由

- ・取組は予定通りであるが、整備後の維持管理(資金・人員等)に問題があるため(荒川)
- ・組織の肥大化による意見集約が困難(麻機)
- ・村の事業として実施しているが実施計画の策定に至っていない(多摩川)
- ・事業は実施計画通り。全体構想に掲げた目標を完遂するための方法を協議中(神於山)
- ・一部の対象区域において取組が実施されていない(榎野川)
- ・自然災害(震災)による被害(阿蘇草原)
- ・これまでの取組への評価が未確定(石西礁湖)
- ・平成27年度に協議会体制を刷新し、具体的取組を検討中のため(竜串)
- ・4つの主要取組のうち2つが計画通りに進展していない(中海)
- ・再生課題達成のための目標の設定と達成手法を再検討中(多々良沼・城沼)
- ・地元住民との協働のための基盤作り中(高安)

#### 「進んでいない」回答理由

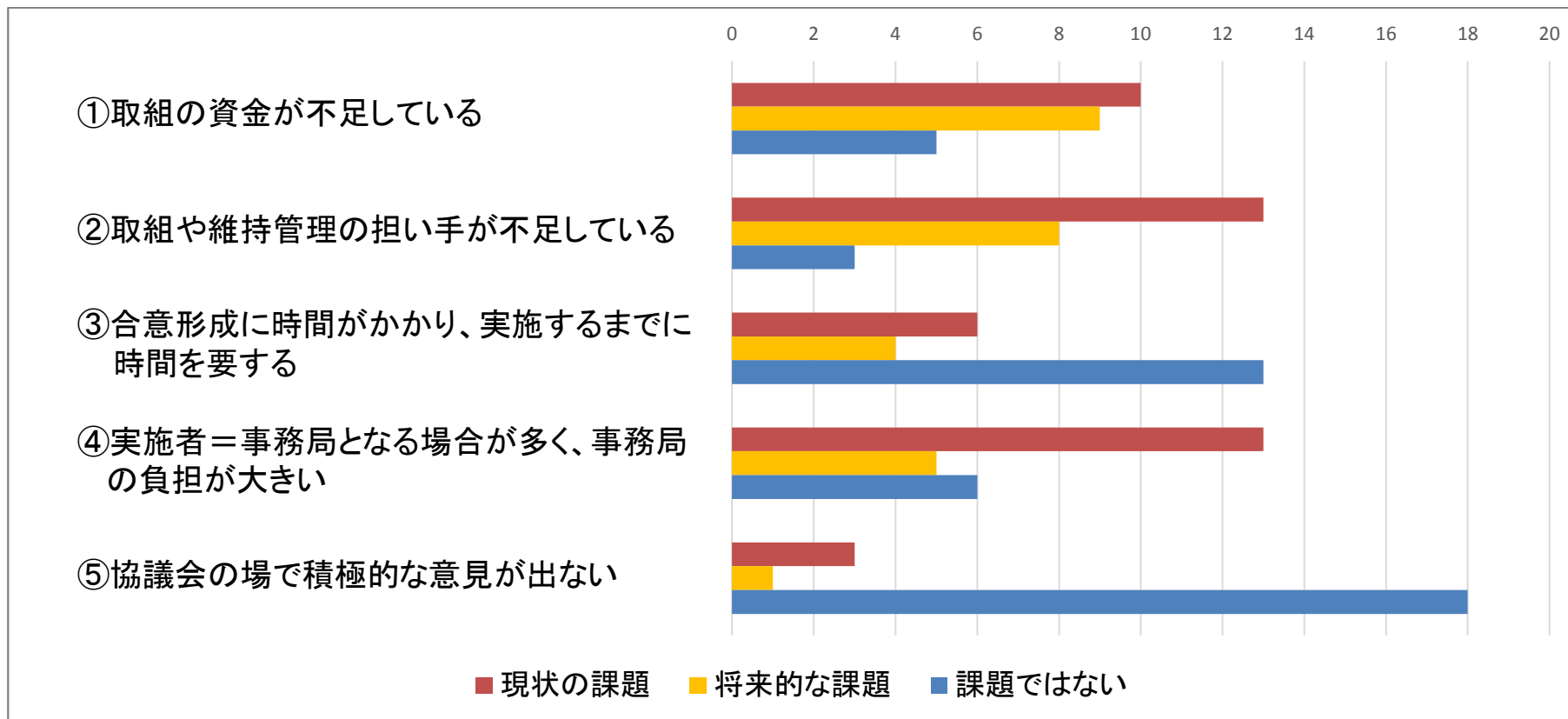
- ・実施計画作成が難航(くぬぎ山地区)

※23協議会より回答

## 3-2. 自然再生事業の実施状況(協議会アンケート結果)

### ○課題1:取組実施にかかる課題

①・②・④については現状および将来的な課題の複数回答1件含む



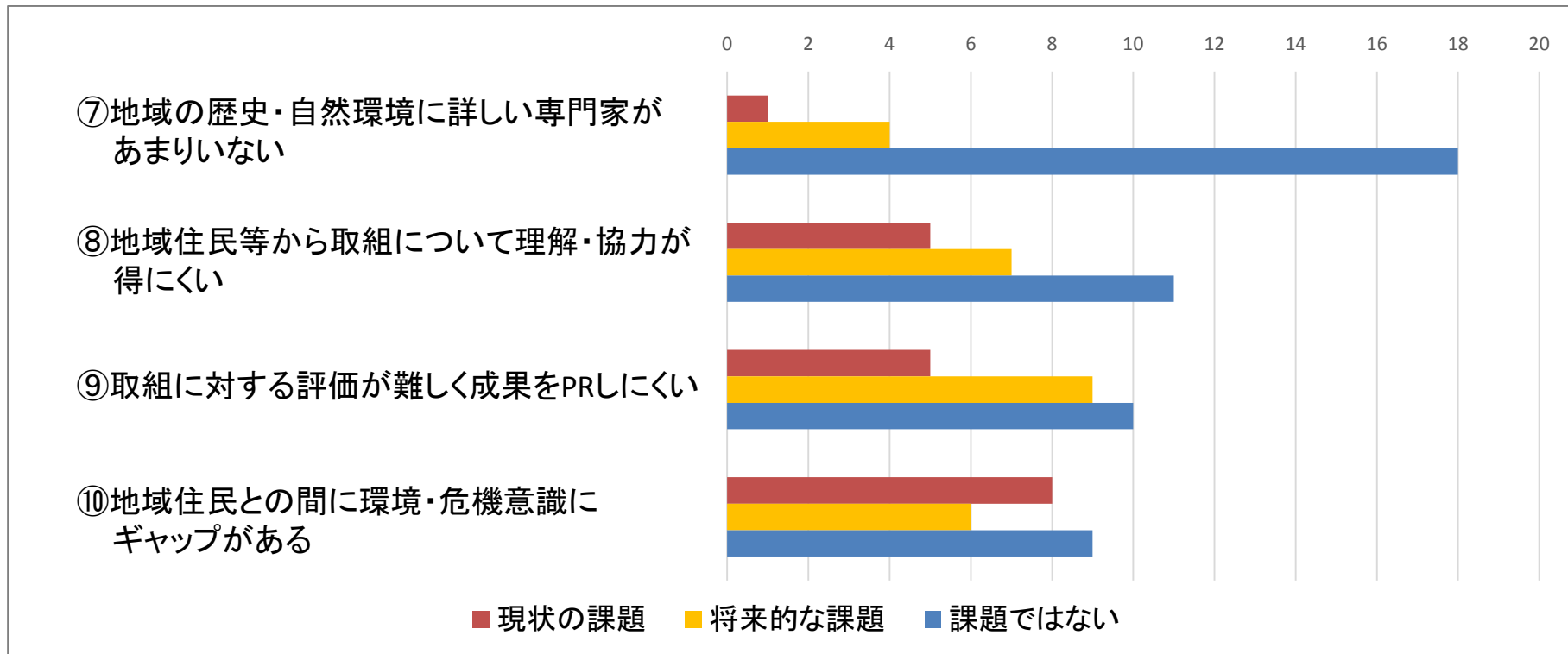
⑥その他回答自由記述

- 現状・将来的な課題として、人材不足・財源の確保を挙げる協議会が多い。
- また、実施者が事務局を担う場合が多く、その負担が大きいことも課題。

### 3-3. 自然再生事業の実施状況(協議会アンケート結果)

#### ○課題2: 地域社会との関係における課題

⑨については現状および将来的な課題の複数回答1件含む

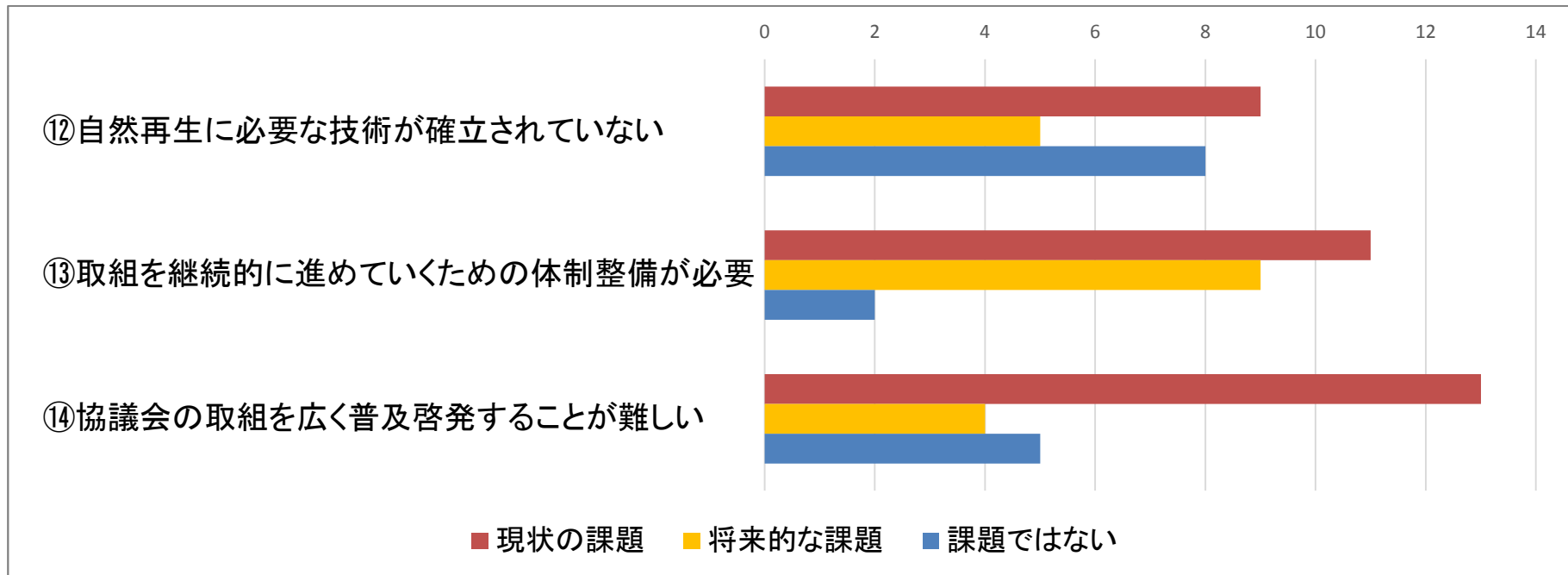


⑪その他回答自由記述

○地域社会との関係については、比較的に大きな課題とはなっていないが、半数以上の協議会が現在または将来的に課題と回答があり、引き続き地域住民の理解を得ていく必要がある(⇒普及啓発等)

## 3-4. 自然再生事業の実施状況(協議会アンケート結果)

### ○課題3:その他の課題



⑮その他回答自由記述

○「自然再生に必要な技術」、「体制の整備」、「広く普及啓発すること」に関して、多くの協議会で課題となっている。

○継続的な実施に向けた体制整備については、事業を継続するうえでの具体的課題として、課題1にある担い手不足との関連性があるものと考えられる。

## 4-1. 代表的な自然再生協議会における取組状況

### たかやす ○高安自然再生協議会

再生課題: 里地里山の自然環境、生態系の再生



#### 再生 目標

絶滅危惧種(I A類)のニッポンバラタナゴを含む地域固有の生物多様性を維持することで、人と自然が共生して暮らせる持続可能な地域づくりを目指す。

概要: 事務局がNPOの最も新しい協議会。住民参加型の体制づくりに努めている。

- 事務局  
大阪経済法科大学地域総合研究所
  - 対象地域  
大阪府八尾市  
(八尾市高安地域の大阪経済法科大学  
周辺や中地区、南地区、神宮寺、久宝寺緑  
地、恩智川とそれに流れ込む小河川。)
  - 設立日: H26.1
  - 構成員数: 33人
  - 全体構想作成日: 検討中
  - 実施計画作成日: 検討中
- (H29. 1現在)

#### 特筆される取組み:

- ・普及啓発の手段として、自然再生活動を対象地域の「まちづくり」の一環として位置づけ活動（「高安まちづくり協議会」との協働）
- ・現在は対象地域の過疎問題などで中心的に活動をする青年を新たに協議会に加え、地元の普及啓発を段階的に進めている。
- ・特産品である綿などの地場産業の再生やエコツーリズムなども計画

#### 課題:

##### 1. 全体構想、実施計画の策定

- ・現在、対象となる高安の地元住民の参加を促すためのプラットフォームを作成中。
- ・「ニッポンバラタナゴ高安研究会」という「限定的」な目的を持つNPOが主導する協議会のため地元住民との協働に苦労している。  
→地元住民参加の目途が立ち次第、全体構想や実施計画を策定する予定。

##### 2. 地元住民との協働について

- ・地元の住民を担い手に加えることが課題。  
(関心の無い住民も多く、地元の運動としてなかなか盛り上がらない)

##### 3. 財源不足

- ・資金確保が恒常的な課題となっており、活動の限界がある。
- ・現在はNPO法人の資金などや委員同士のつながりによって活動を継続。  
→行政との積極的な連携が必要。



ため池の水質維持のために伝統的に  
行われてきた「ドビ流し」の活動を実施



ニッポンバラタナゴ



## 4-2. 代表的な自然再生協議会における取組状況

たたらぬま・じょうぬま

### 〇多々良沼・城沼自然再生協議会

再生課題: 人と沼の絆の創造と再生



#### 再生目標

「人と沼の絆の創造と再生」をスローガンに、過去の環境の再生をイメージし、「21世紀にふさわしい沼本来の姿」を目指す。

概要: 協議会の運営が行政主導で、モニタリングなどの行政中心の活動が多い。

- 〇 事務局  
群馬県土整備部館林土木事務所
- 〇 対象地域  
群馬県館林市、邑楽町  
(館林市と邑楽町にまたがる約80haの多々良沼と館林市の約50haの城沼とその周辺地域。)
- 〇 設立日: H22.4.10
- 〇 構成員数: 54人
- 〇 全体構想作成日: H23.5.13
- 〇 実施計画作成日: H26.1.26  
(H29. 1現在)

#### 特筆される取組み:

- ・平成30年度の指定管理制度の導入に向け、景観管理や水質調査などは継続的に実施
- ・多々良沼、城沼とも、個別の活動(多々良沼野鳥観察会など)は継続的に実施  
(沼の敷地(公有地)の管理は県が担っており、市や町の担当部局との連携が希薄)

#### 課題:

1. **熱意ある若い担い手の不足**
  - ・行政と強いつながりのある市民団体「多々良沼自然公園を愛する会」が民間の主な活動団体であり、その団体がもつ課題(若い担い手不足、活動の広がり限界など)がそのまま反映。
2. **協議会における意見集約**
  - ・離れた地域に居住する専門家に担当者が個別で連絡を取ることが多く、複数の専門家を交えて意見を集約することが難しい。
  - ・委員同士の考え方の相違(白鳥やオオタカなど)によって運営方針の統一が難しい。
3. **多様な民間団体とのさらなる連携**
  - ・当初の目標および計画が行政主導で進められた経緯があり、民間や地域住民の意欲的な参加者が少ない。→積極的な呼びかけと場の設定が必要。



多々良沼のヨシ焼き



城沼のハス群落

## 4-3. 代表的な自然再生協議会における取組状況

### あさはた ゆうすいち ○麻機遊水地保全活用推進協議会



(静岡県)

再生課題: 湿地生態系の保全・再生 良好な水環境の再生

再生  
目標

麻機遊水地に昔から暮らしてきた多様な生きものたちが、遊水地で生息・生育できる環境を再生していくを目指す。

概要: 加入団体が増え地域協働の取組が活発化。発展的継承による新協議会設立。

- 事務局  
静岡県静岡土木事務所  
静岡市役所
- 対象地域  
静岡県静岡市麻機遊水地  
(第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区の総面積約160ha。)
- 設立日: H16.1.29
- 構成員数: 84団体、43人(専門家含む)
- 全体構想作成日: H19.3.1
- 実施計画作成日: H20.12.8  
(H29. 1現在)

特筆される取組み:

- ・積極的な声かけにより、設立当初の17団体から84団体に拡大
- ・自然再生に加え利活用が活発化したため、旧協議会を発展的に継承した新協議会がH28年7月発足
- ・県と市が下支えすることで、民間主体による活動を推進
- ・遊水地周辺の病院、学校、福祉施設等が保全活動に積極的に参加

課題:

#### 1. 財政基盤の強化

- ・現在は、県市からの支援金が主な財源。民間主体への移行を目指すため、安定した財源が必要。  
→寄付金等も増えているが、各参加団体による補助金の獲得等も期待。

#### 2. 調査・モニタリングの実施

- ・現在は保全、維持活動が主体的。  
→市民参加型の調査・モニタリング手法を模索中。

#### 3. 広報・啓発活動など

- ・広報の手段としてHP上の周知だけでは限界があるとのこと。  
→現在は、イベント参加団体のHPなどでの参加報告掲載による波及効果を期待。

#### 4. 多様な意見の集約

- ・「自然再生」と「利活用」との両立。



火入れ実験



埋土種子調査  
(静岡北特別支援学校)



サクラタデ観察会の様子

## 5-1. 課題解決のための対応策(詳細聞き取り結果)

### ■課題1, 2: 担い手不足/資金不足/地域における普及啓発

#### 【主な要因】

- ・少子・高齢化、過疎化という根本的な問題がある。(霞ヶ浦、八幡湿原、高安)
- ・コアな活動メンバーによる活動となりがちで、新たな担い手の参加が少なく、世代交代ができていない。(上山高原)
- ・これまでの活動とその成果について理解が得られていない。(くぬぎ山)
- ・自分が担い手として参加する魅力やメリットまで感じない。(活動が生活に直結しない。)(上山高原)
- ・現在は県や市からの負担金を財源としているが、今後恒常的に提供される確約がない。(麻機)
- ・自然再生事業は、10~20年と長期的な展望での実施になるので、継続的な予算が求められる。(釧路湿原)



#### 【対応策の取組事例 (担い手確保)】

- ・「まちづくり活動」を組み込むことによる地域住民の参加(高安)
- ・病院、学校、企業等に継続的な声かけ(利活用の意向確認等)することによる参加団体の増加(麻機)

#### 【対応策の取組事例 (資金確保)】

- ・「まちづくり」を利用したエコツーリズムや地場産業の振興などによる資金確保を目指している(高安)
- ・安定して資金を獲得するための仕組みづくり(クラウドファンディングを活用した寄付金を集める仕組みなど)を検討している(榎野川)(※アンケートによる回答)

#### 【対応策の取組事例 (担い手確保も視野入れた普及啓発)】

- ・自然再生地での自然観察会の開催。(八幡湿原)
- ・自然の恵み(供給サービス: ススキを茅材として販売、文化的サービス: 地元の小中学校の環境学習で利用など)を利用し、魅力を発信。(上山高原)
- ・自然再生の拠点施設「マリンジャム」を中心に、地元町職員を主体として、地元町民、小学生やボランティアダイバーを対象に自然環境学習等を実施。(竹ヶ島)
- ・里山ボランティア育成入門講座を毎年開催。(神於山)

## 5-2. 課題解決のための対応(詳細聞き取り結果)

### ■課題3:その他の課題

#### 1) 自然再生に必要な技術

- ・状況に合わせて取り組みを進めていくことへの難しさ(榎野川)
- ・地域の状況に応じて手法を考えていくことへの難しさ(三方五湖)
- ・特化した専門家はいても、自然再生全体を見渡せる専門家や技術の不足(麻機)

#### 2) 取組を継続的に進めていくための体制整備

- ・将来にわたる継続的な取組には地元住民の理解と参加協力が不可欠(高安)
- ・行政主体では継続性に限界があるため、民間主体への移行を計画中(麻機)
- ・取組を担ってきた主要団体が高齢化、新たな担い手が必要(多々良沼・城沼)

#### 3) 地域の枠を超えた幅広い普及啓発

- ・現況でも実施しているが十分とは言えない(榎野川)
- ・加入団体(企業)によるHP等での活動報告(麻機)



#### 【対応策の取組事例 (その他の課題)】

- ・地場産業や伝統芸能の振興など、地元の「高安まちづくり協議会」との協働(高安)(3-2)
- ・企業などが新入社員研修などで再生活動に参加、その活動を独自にPR(麻機)(3-3)

#### 【今後期待する対応策】

- ・全国の登録団体が気軽に情報交換できる仕組み(Webサイト等)の構築(八幡湿原, 麻機)(3-3)

※課題3-1「自然再生に必要な技術」について、聞き取り調査では具体的な取組事例等の回答はなかった。

## 6-1. まとめ(自然再生協議会における課題・対応)

### 主な課題

- (人材的課題) ・ 少子高齢化が進展しており、協議会や活動を支える核となる担い手や参加者の確保が難しい。
- (資金的課題) ・ 長期的に活動資金を確保することが難しい。
- (普及啓発の課題) ・ 活動の理解を得るため、活動の効果等を評価してPRすることが難しく、地域住民からの共感や協力を得ることが難しい。
- (その他の課題) ・ 自然再生の技術が確立されていない。  
・ 関係者の協力体制を強化する必要がある。  
・ 広く普及啓発を行う必要がある。

自然の恵み(魅力)を活用しつつ、地域社会の理解・共感により、活動への積極的な参加や担い手の確保、自己資金による活動資金の確保につなげ、持続可能な協働体制の構築がとめられる。

(※ 地域の実情に応じて各協議会において具体的な対応策の検討が必要。)

## 6-2. まとめ(イメージ図)

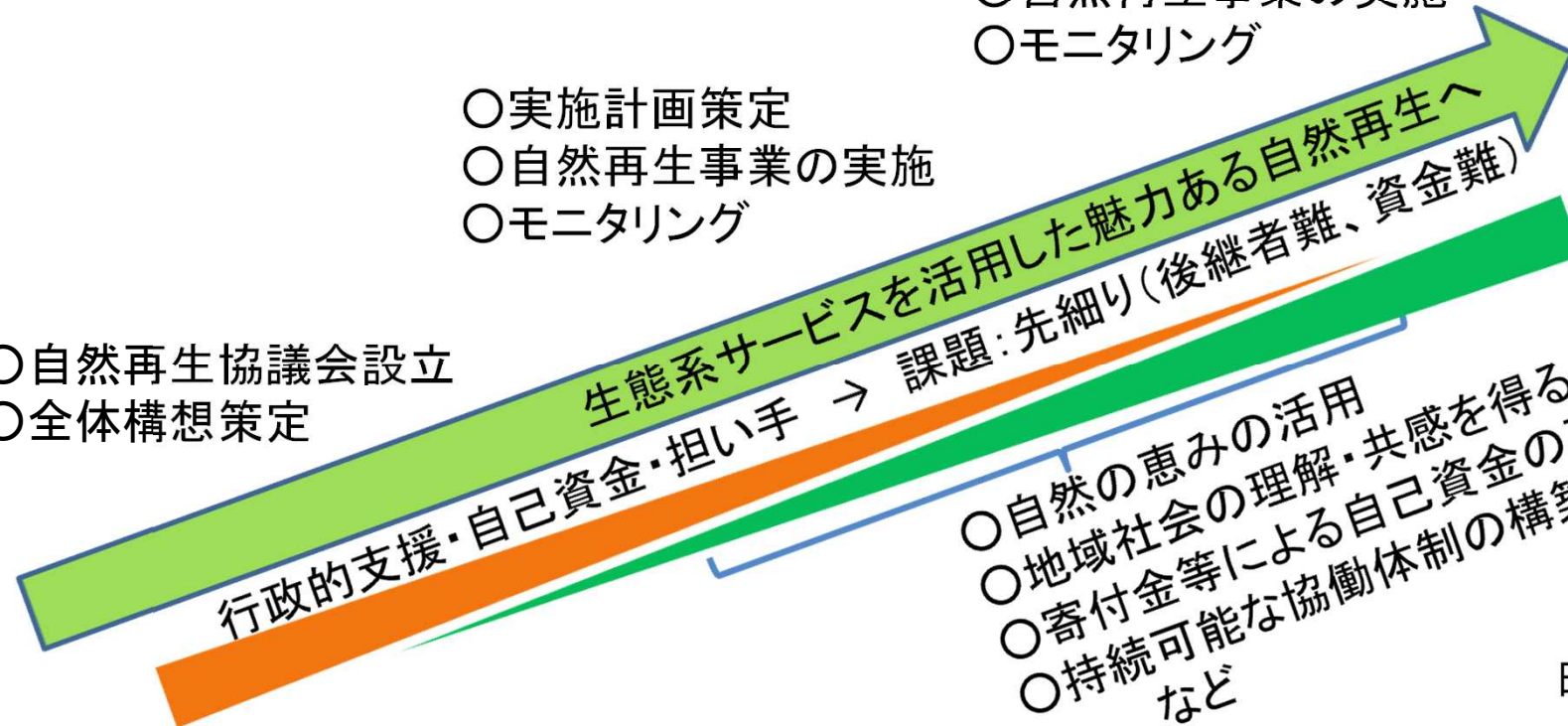
再生目標

(自然再生協議会における自然再生事業)

- 実施計画策定(Ⅱ期)
- 自然再生事業の実施
- モニタリング

- 実施計画策定
- 自然再生事業の実施
- モニタリング

- 自然再生協議会設立
- 全体構想策定



- 自然の恵みの活用
- 地域社会の理解・共感を得る
- 寄付金等による自己資金の確保
- 持続可能な協働体制の構築  
など

(初期)

(中期)

(長期)

時間軸

※ 上図は全体的なイメージを示すもので、各協議会における地域の実情に応じて、具体的な対応策の検討が必要。

全国の自然再生協議会における今後の取り組みの参考として  
ご提案、ご助言等いただけますと幸いです。

ご静聴いただきありがとうございました。